

おおふな

2025年7月28日 No.3

発行者：森田隼士 編集：情宣部

JR東労組 大船支部

大船支部第29回定期大会開催！！③

あらゆる組織破壊攻撃を許さず、全組合員と共に健全なJR東日本をつくり出す特別決議 ~~二二~~

2025年5月23日、小林執行委員長に対して突如異動の意識付けが行われ、6月4日には6月16日付けで東京総合車両センター装置科への異動が発令された。本人希望を無視し、さらに支部大会を目前に控えたなかでの一方的な異動発令は組織破壊攻撃以外の何物でもなく、絶対に許すことはできない。改めてJR東日本会社に対して、最大限の怒りをもって抗議する。

最初の意識付けはあろうことか屋外、しかも誰もが往来できる通路で行われた。異動の理由は「ベテランの人にもステップアップをして欲しい」「棒連結器の割ピンを割るのが早い。若い人に教えて欲しい」と言ったかと思えば、「異動先では通電状態の電車に触れる機会が少ない。経験のある人がいれば心強い」等、二転三転している。鎌倉車両センター副所長は、家庭の状況により苦渋の決断で異動した組合員の実名を挙げ、「国府津車両センターは希望する人がいない。自ら異動してもらって助かった」と述べ、さらには「中原支所に行ってもステップアップしない」とも述べている。こうした言動は、希望しない異動や、あるいは本人が悩んだ中でも異動した仲間たち、何よりも鎌倉車両センター中原支所や国府津車両センターで働く仲間たちをも冒す暴言であり、絶対に許すことはできない。

当該職場である鎌倉車両センターでは、昭和採用の先輩方が退職された後も、中堅やベテラン層の組合員が相次いで転出している。職場での要員が少なくなるなか、安全で安定した車両を提供するための技術継承が急務になっているこの最中において、実に四半世紀に渡り検修業務を経験し、現場を支えてきた小林委員長の異動については、組合員や未加入者からも「一体会社は何を考えているのか」「ただでさえ人がいない中で、経験を積まれた先輩がいなくなるのが不安」「多くの経験を積んできた人に対して割ピンを割るのが早い？失礼だ！」等、多くの怒りや不安の声が出されている。

大船支部では支部執行部や鎌倉車両センター分会を交えたミーティングを幾重にも重ね、今回の異動は組織破壊攻撃であることを職場の仲間とも一致させ、たたかいをつくり出してきた。5月30日には大船支部主催「あらゆる組織破壊攻撃を許さず、すべての仲間がたたかい抜く怒りの緊急集会」を開催し、他支部も含め36名の仲間が結集した。参加者からは「時の支配者階級はいつも労働者の団結を断ち切る。今も昔も変わらない」「横浜地本全体にかけられた攻撃だ！自職場でも知らない組合員をつくらないたたかいを展開していく」「自らも異動では辛い思いをしてきた。今日来れなかった組合員も含めて、みんなで応援していく」「小林委員長は職場のエキスパートだ。その人を異動させる、理解できない」など、多くの怒りや激励の言葉が出された。この他にも、他職場において情報作成や現場長への抗議を実践した仲間もいる。

小林執行委員長の異動に留まらず、本人希望を無視した不当転勤も未だに多く発生している。「JR武蔵小金井駅暴行事件」裁判においては、被告であるJR東日本の答弁書において、社員が副長に突き飛ばされ、首元を押さえられた事実がなかったことにされている。おかしいことはおかしいと声をあげる労働組合の破壊や弱体化を狙い、現場の技術継承や本人希望、キャリアプランを一方的に無視し、会社にとって都合が悪ければ見境なく隠蔽を行い、果ては加害者を擁護し、被害者を加害者とし糾弾するような経営姿勢を是正しなければ、働く者の「安全・健康・ゆとり」は確保されず、ひいては鉄道の安全を守ることは到底できない。

このたたかいにおいては、他支部からも多くの激FAXや情報の掲示、現場長への抗議など、連帯のたたかいをつくり出して頂いたことに感謝を申し上げます。最終的に簡易苦情処理を申請するも、異動の撤回とはならなかったが、この怒りや悔しさをバネにして、組織破壊攻撃を許さないたたかいでつくり出した組織力や教訓を基礎に、健全なJR東日本をつくるために、更なる組織強化・拡大を実現していく！

以上、決議する

2025年7月26日
東日本旅客鉄道労働組合大船支部 第29回定期大会

あらゆる組織破壊攻撃や
本人希望を無視した不当転勤は許さない！